

2023年3月号 排出放射性物質影響調査に関する情報を紹介いたします。

冬期理科教室を開催しました。

職員との交流を通して児童が科学に関心を持つよう、2月に5、6年生を対象とした冬期理科教室を環境研で7回開催しました。村内の全小学校から参加があり、とても楽しく盛況な理科教室となりました。

今回は、“固まる、固める”をテーマに、レプリカハンドを製作しました。まず型どり剤で自分の手型を作り、次いで石膏を手型に流し込んで固めました。また、レプリカハンドが固まるまでの時間を利用して人エイクラを作りました。

どろどろの型どり剤や人エイクラの感触、また、出来あがったレプリカハンドの精密さに、多くの児童が歓声をあげていたのがとても印象的でした。



(1)講師の説明を聞いて作ります。



(2)手型とりの準備をします。



(3)手型ができるまで、じっとがまん。



(4)手型に石膏を流し込みます。



(5)レプリカハンドを発掘します。



(6)人エイクラも作りました。

科学コミュニケーション能力向上に関するセミナーを開催しました。

環境研では、地域との双方向コミュニケーションの視点を重視した理解醸成活動を進めています。その一環として、地域とのコミュニケーションスキルやノウハウをより高めていくためのセミナーを12月26、27日、六ヶ所村尾駈コミュニティセンターにて開催しました。

講師として、日本原子力研究開発機構(JAEA)核燃料サイクル工学研究所、菖蒲(あやめ) 順子氏を招き、「JAEAサイクル研における地域でのコミュニケーションの実践」と「コミュニケーションのコツ(聴く・話す技術)」についてご講義いただきました。

セミナーには地域の行政や研究機関等からも参加いただき、地域に根ざした理解醸成活動の新しい一歩を踏み出すことができたと感じています。



講師の菖蒲順子氏

国際放射線防護委員会(ICRP)に参加して

2022年11月にカナダのバンクーバーで、ICRP(国際放射線防護委員会)シンポジウムが、61ヶ国、400名以上の現地参加者(日本人35名)を得て開催されました。ICRPは、「放射線被ばくに関連して望ましい人間の努力及び行動を不当に制限せず、被ばくによる有害な影響から人間と環境を守るための適正な水準の防護に寄与する」ことを目的に勧告を出しています。今回は、防護の新しい領域として白内障と循環器系疾患、リスクについては、合理的なリスクの考え方(線量に加え、価値や倫理)とその課題、加えて環境防護などについて広く議論されました。勧告の内容は複数のタスクグループ(TG)で議論されており、TG91(低線量影響)、99(レファレンス動物・植物)、110(獣医領域)、111(個人の放射線感受性)、118(生物学的効果比)、121(次世代影響)での報告書に環境研の成果の貢献が期待されます。

今回は、今年(2023年)、日本放射線影響学会と日本保健物理学会との共催で東京において開催され、環境研主催のワークショップも計画しています。(理事長、島田義也)



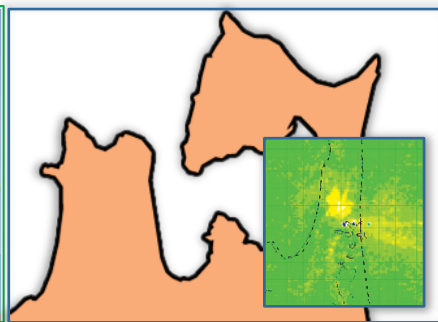
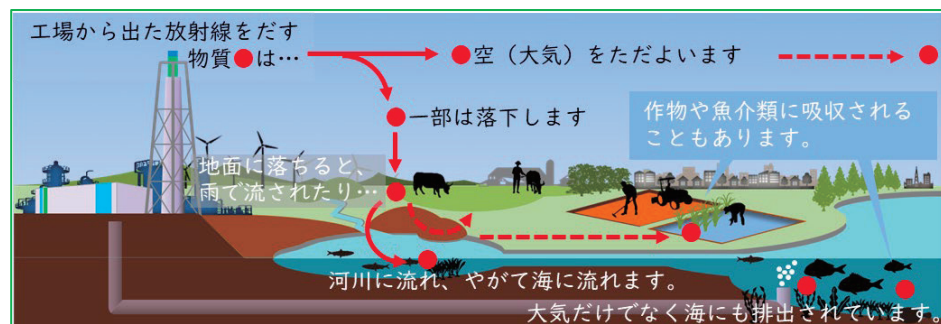
ICRP 2023
6-9 NOVEMBER 2023 • TOKYO, JAPAN

ICRP(国際放射線防護委員会)
シンポジウムが日本で開催されます。

研究紹介:放射性物質の行方を計算しています。

再処理工場では、国が定めた基準値以下の放射性物質を含む気体を排気筒から、液体を海洋放出口から排出します。排出された放射性物質は、天然の物質と同じように環境を巡ります。例えば雨と一緒に地面に落ちたり、川や海に流れたり、生物や農作物に取り込まれたり…と、その行方は様々で複雑です。

環境研では、科学的な知識に基づいて、排出された放射性物質の行方を計算する方法を研究しています。様々な環境変化を理解し、計算結果をより良いものにする努力を続けています。さらに、一般の方に計算結果をご理解いただけるようなコンテンツの作成を進めています。



環境を巡る放射性物質の行方が分かる計算式を作成。

放射性物質のある場所を可視化

お知らせ:見学、気になる話題を募集しております。

環境科学技術研究所ではみなさまに我々の活動を知っていただくため、随時見学を受け付けております。また、今後もセミナー、イベントを開催し、みなさまとの交流を深めていきたいと思っております。気になる話題や疑問などがあれば下記の連絡先までお知らせください。

お問い合わせ先(放射線に関するご質問も受け付けております)



公益財団法人
環境科学技術研究所 共創センター

ホームページ

メールアドレス

電話(FAX)

<https://www.ies.or.jp/>
kanken@ies.or.jp
0175-71-1240(72-3690)

本誌は青森県からの委託により制作しています。